

狂言入間川を観る会
第三十回・山本東次郎米寿記念

狂言鑑賞会

【福の神】

◆「入間川」
◆「花子」
◆「福の神」

山本則重
山本則孝
山本東次郎

◆狂言のお話

加藤元秀
山本則秀
山本凜太郎
山本泰太郎
山本泰太郎
若松隆
山本東次郎



【入間川】

【花子】

撮影 狂言入間川を観る会

狂言入間川を観る会について

狭山市の中央を流れる入間川。この川を舞台とする、「狂言「入間川」」を地元で鑑賞したいというのは、(故)広沢謙一氏はじめ、開館間もない水野公民館関係者の夢でした。夢実現の契機は、三十五年前の平成三年、同館近くに在住の狂言師(故)山本則直師を講師に「狂言鑑賞講座(柿山伏)」を実施したこと。講座終了後、受講生は「本格的な狂言公演を地元で鑑賞したい」と、(故)則直師に依頼しました。平成六年(故)広沢氏を中心に鑑賞会実施に向けた、「狂言入間川を観る会」が発足しました。同年十一月「第一回狂言鑑賞会」を狭山市市民会館で開催。東次郎師演ずる「入間川」他が上演されました。以来三十余年の長期にわたり、市民が主体となつて鑑賞会の企画運営に当たっています。今回、記念すべき三十回を迎えます。

令和8年 3月8日(日) 開場12時15分 開演13時
狭山市市民会館 大ホール

鑑賞券(全席指定)

前売り券：S席3,500円 A席2,500円 学生割引 A席500円

当日券：S席4,000円 A席3,000円 学生割引 A席500円

発売開始：令和8年1月9日(金)

申込・問合せ：●窓口販売

窓口購入が便利です。お好きな座席をお選びいただけます。
狭山市市民会館 TEL 04-2953-9101

●郵便振り込み申し込み

申し込み先：狂言入間川を観る会 担当 滝口宏輔 TEL・FAX 04-2957-2740
お支払いは下記口座へ、申込枚数を記入してお振り込みをお願い致します。

郵便振込口座 00140-6-172727 狂言入間川を観る会

主催 狂言入間川を観る会・狭山市 共催 狭山市市民会館
後援 狭山市文化団体連合会・さやま市民大学同窓会

曲目の紹介

◆「入間川」 いるまがわ (大名狂言)

大名 山本則重
太郎冠者 加藤元
入間の某 山本則秀

訴訟の件で長い間、都へ留めおかれた大名ですが、ようやく、願いが叶い、太郎冠者を伴って意気揚々、東国の国元に帰ります。すべて望み通りになった上、新たな領地まで拝領した嬉しさに天下を取ったような気分の大名、武蔵の国まで来ると大きな川に出ますが、どうしても川の名前が思い出せません。そこで川向こうの人に尋ねますが、横柄な物言いをしたため、同様に言い返されてしまいます。怒った大名は太刀を抜きかけますが、太郎冠者になだめられて丁寧な言い直します。川の名を「入間川」と教えてもらった大名は心の中で「人間の逆さ言葉」を使った仕返しをする機会をうかがいます。

◆「花子」 はなこ (智女狂言)

夫 山本則孝
太郎冠者 山本凜太郎
妻 山本泰太郎

美濃の国で出会った女・花子が上京し、しきりに逢いたいと言っている。一計を案じ、「夢見が悪いので仏参りしたい」

と妻に申し出た夫、しかし外出は許されず、屋敷内の持仏堂で座禅をすること。やむをえず太郎冠者を脅して身代わりに置いた夫は、喜び勇んで花子のもとへ飛んでいく。夫を心配し、様子を見に行ったら妻は事実を知って激怒、太郎冠者と入れ替わって夫の帰りを待つ。そうとは知らぬ夫は夢心地で家路に着く。

◆「福の神」 ふくのかみ (脇狂言)

福の神 山本東次郎
参詣人甲 山本泰太郎
参詣人乙 若松隆

大晦日の夜は必ず「福の神」の神前で年越しをする二人の男。今年も二人そろって詣で、信仰のお蔭で豊かになっていくことを喜び合いながら豆をまいていると、突然、不思議な気配が漂い、「福の神」が姿を現します。「福の神」は二人が信仰篤いことを褒め、好物の酒をねだると上機嫌になって、さらに豊かになるための心得を伝授するのです。

◆「狂言のお話」

山本東次郎
日本芸術院会員・人間国宝・文化功労者

演者の紹介

山本東次郎 やまもと とうじろう 昭和十二年生

狂言方大藏流・山本東次郎家四世。三世東次郎の長男。山本会を主宰。平成四年度芸術選奨文部大臣賞受賞。平成十一年紫綬褒章受賞。平成十三年エクスンモービル音楽賞受賞。平成十九年日本芸術院賞受賞。重要無形文化財総合指定。令和四年文化功労者。著書「狂言のすすめ」「狂言のことだま」(どちらも玉川大学出版部)。「狂言 山本東次郎」(共著 新人物往來社)。東京都杉並区在住。

山本泰太郎 やまもと やすたろう 昭和四十六年生

山本則直の長男。父および東次郎に師事。昭和五十二年、「朝霧」の子猿で初舞台。平成二年「三番三」、平成八年「釣狐」を抜く。平成二十二年文化庁芸術祭優秀賞受賞。令和四年「枕物狂」を抜く。若手能楽師と「三聲会」を開き研鑽の場としている。重要無形文化財総合指定。狭山市立南小学校出身。

山本則孝 やまもと のりたか 昭和四十八年生

山本則直の次男。父および東次郎に師事。昭和五十二年「伊呂波」で初舞台。平成八年「三番三」、平成十五年「釣狐」を抜く。若手能楽師と「三聲会」を開き研鑽の場としている。重要無形文化財総合指定。狭山市立南小学校出身。狭山市在住。

山本則重 やまもと のりしげ 昭和五十二年生

山本則後の長男。父および東次郎に師事。昭和五十七年「伊呂波」で初舞台。平成十二年「三番三」、平成十六年「釣狐」を抜く。若手能楽師と「七拾七年会」を開き研鑽の場としている。重要無形文化財総合指定。

山本則秀 やまもと のりひで 昭和五十四年生

山本則後の次男。父および東次郎に師事。昭和六十年「伊呂波」で初舞台。平成十四年「三番三」、平成十八年「釣狐」を抜く。重要無形文化財総合指定。

山本凜太郎 やまもと りんたろう 平成五年生

山本泰太郎の長男。父および東次郎に師事。平成九年「伊呂波」で初舞台。平成二十八年「釣狐」を抜く。令和四年「花子」を抜く。狭山市立柏原小・中学校出身。

若松隆 わかまつ たかし 昭和三十四年生

東次郎に師事。平成二十八年「三番三」を抜く。

狂言講演会 (主催 狂言入間川を観る会・共催 中央公民館)
狭山市の若手狂言師 山本泰太郎、則孝、凜太郎による事前学習会 (狂言ワークショップ)

毎年好評を
戴いております
狂言講演会

日時 令和8年2月3日(火)
14時～15時30分 開場13時30分～
会場 狭山市市民会館 小ホール
定員 300人 入場無料
問合せ先 中央公民館 04-2952-2230

申し込み等の詳細については、広報さやま12月号または、12月10日以降、中央公民館のホームページをご覧ください。